

# 特集 : SunSystems のパスワードの設定について

## ■IT 統制とパスワードの設定

最近、サポートデスクに、IT 統制に関連したお問い合わせをいただくことが増えました。

企業の業務プロセスの統制を実現するためには、情報システムや業務アプリケーションを活用することが一般的ですが、一方で、システムやアプリケーションそのものにもシステムダウンや不正侵入などのリスクがあり、これらを内部統制の対象として正しく管理・運用する必要があります。これが「IT 統制」といわれるものです。IT 統制で特に重要なのは、適切な職務分掌のもと、「誰に」どのような権限が与えられており、「誰が」何をしたのかが分かるというコントロール（統制）の基本が成立していることですが、そのためには、オペレータの認証機能（ID とパスワードなどによる認証）が大前提です。この認証機能に不備があると全てのコントロール（統制）の有効性に影響が出てきます。

そこで、オペレータの認証のレベル、特にパスワードの管理については最低限クリアする必要がある項目として、一般的には次のような点が求められることとなります。

- (1) パスワードの文字数や文字の種類（5 文字以上・英数字の組み合わせなど）
- (2) パスワードの定期的な変更（60 日たったら変更しなければならない、同一のパスワードを繰り返し使用できない回数の制限など）
- (3) オペレータ自身によるパスワードの変更機能

このような点で、サポートデスクにご連絡いただく代表的なお問い合わせとして、「SunSystems のパスワードの桁数制限の設定」があります。そこで、今回の瓦版では、あらためて、SunSystems のオペレータ ID のパスワード設定について特集いたします。

## ■パスワードに関する具体的な設定の方法

パスワードに関する具体的な設定として、ここではパスワードの最小文字（桁）数を 5 文字以上に設定し、有効期間を 60 日に設定する方法をご紹介します。

### SunSystems4.2 の場合

※SunSystems4.3 の場合は 9 ページをご覧ください。

パスワードに関する設定は、OP=オペレータ許可(Operator Permissions)の画面で行います。

OP=オペレータ許可(Operator Permissions)は、主に、「処理可能なデータベース」、「選択可能なコマンド」、「コマンド単位の処理可能項目」などSunSystemsの操作の制限（「誰に対して」・「どのような操作の権限」を与えるか）を管理する画面ですが、オペレータIDのパスワードの桁数と有効期限の設定のみに使用することもできます。

#### 1. 新しいオペレータグループを作成するケース

※既に存在するオペレータグループの設定を変更する場合は、7ページの 2. をご覧ください。

SunSystemsにログインし、メニュー画面から管理(M=Maintenance)⇒設定 (S=Setup) ⇒ OP=オペレータ変更許可(Operator Permissions)を選択します。

## ★OP=オペレータ変更許可(Operator Permissions) での設定

The image shows two side-by-side screenshots of the SunSystems software interface. The left screenshot is titled 'SunSystems - Operator Group' and the right is 'SunSystems - Maintain Operator Permissions'. Both screens show a form with various fields for configuring operator permissions. In both screenshots, the 'Password Length' and 'Password Interval' fields are circled in red. The 'Password Length' field is set to '5' and the 'Password Interval' field is set to '60'. The 'Database Code' field is empty. The 'Menu Selections or Data Restrictions or Miscellaneous Restrictions (S/D/W)' field is set to '0'. The 'System' field is empty. The 'Menu Selections Default Permission (Y/N)' field is set to 'Y'. The status bar at the bottom of the left screenshot says '更新が完了しました' and the right one says 'UPDATE COMPLETED'.

選択(A=Action)より、新規作成(C=Create)を選択して以下の設定を行います。

### ①オペレータグループ(Operator Group)

オペレータのグループを5文字以内の英数字で任意設定します。

※オペレータグループにはこの項目が空白の「標準オペレータグループ(Default Operator Group)」があらかじめ存在しています。「標準オペレータグループ」の初期状態は、何の項目も設定されていませんので、パスワードに制限は設定されていません。

### ②グループ名(Group Name)

グループの名前を設定します (半角30文字、全角15文字以内)

### ③パスワード桁数>Password Length)

登録するオペレータのパスワード桁数の最小値を設定します。(空白/1~10桁)

桁数は10桁以下で任意に設定することが可能です。

今回はパスワードの桁数を「5」に設定します。

※新規に「オペレータグループ」を作成し、「パスワードの桁数」設定を空白にした場合、「標準オペレータグループ」の設定が有効となります。ただし、①に記載のとおり、「標準オペレータグループ」の設定が初期設定のままであれば、パスワードに関する制限は設定されておられません。

### ④パスワード期間>Password Interval)

パスワードの有効期間を設定します。1(日)~999(日)まで設定可能です。空白の場合には無期限となります。

今回はパスワード期間として「60(日)」を設定します。

※ここでの設定を空白とした場合は、「標準オペレータグループ」で設定した期間が適用されます。

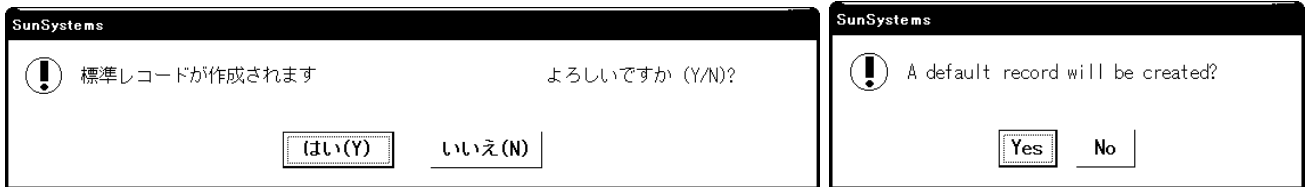
これは、パスワード桁数の設定の場合と同じです。

### ⑤データベースコード(Database Code)

空白のままエンターします。

設定は以上です (その他の項目の説明は今回省略します)。

次の「メニュー選択又は(Menu Selection or)」の欄にカーソルが移動したことを確認し、<ESC>を押し、表示されるメッセージ「標準レコードが作成されます。よろしいですか？(Y/N)?」(A default record will be created?) に、「はい(Y)」(Yes)で答えて、内容を更新します。



メッセージが消えて、画面左下に「更新は完了しました」(Update Completed) の文字が表示されたら、<ESC>を押し、カーソルを選択(A=Action)に戻します。

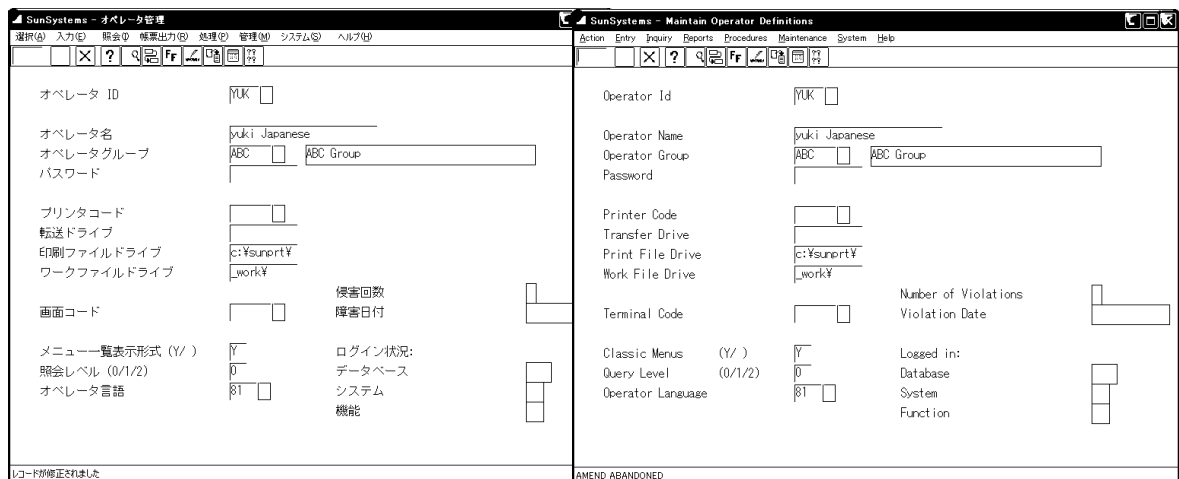
## 2. 既に存在するオペレータグループの設定を変更するケース

既にオペレータグループ(Operator Group)が存在しており、パスワードの設定だけを修正したい場合は、前頁をご参照の上、OP=オペレータ許可(Operator Permissions)の画面で、選択(A=Action)から修正(A=Amend)を選択し、既存の①オペレータグループ(Operator Group)を呼び出し、③パスワード桁数(Password Length)から、⑤データベースコード(Database Code) までを設定してください。このとき、オペレータグループを選択した後で、カーソルが、データベースコードの欄まで進んでしまうので、キーボードの「ALTキー」+「B」を押して、カーソルを戻してください。

## 3. 作成したオペレータグループに、各オペレータを参加させる設定

作成したオペレータグループ(Operator Group)に、各オペレータを参加させる設定を行います。  
※既に存在するオペレータグループの設定を変更した場合はここでの作業は不要です。

### ★OD=オペレータ定義(Operator Definitions) での設定



SunSystemsのメニュー画面から管理(M=Maintenance)⇒設定(S=Setup)⇒OD=オペレータ管理(Operator Definitions)を選択します。選択(A=Action)より、修正(A=Amend)を選び、オペレータID(Operator ID)に、設定を行うユーザーIDを入れ、オペレータグループ(Operator Group)の欄で、先程作成したオペレータグループを設定します。

ここまでの設定が終了したら、SunSystemsを一旦終了し、再度起動します。

#### 4. 実際の運用例

SunSystems再起動後の最初のログイン画面で表示されるメッセージは以下のとおりです。

##### ①最後にパスワードを変更してから、設定した有効期間（今回の例では60日）以上の日数が経っている場合

ログイン画面でパスワードを入力した時に、画面左下に

「パスワードの期限が切れました。新しいパスワードを入力してください」  
(Password expired, please enter a new password)

と表示されますので、パスワード入力欄に新しいパスワードを入力します。すると、

「確認のため、パスワードを再入力してください」(Re-enter password to confirm)

と表示されますので、再入力することによりパスワードが更新され、ログインすることが出来ます。

※この時、設定した桁数よりも少ない桁数のパスワードを設定すると、「パスワードは最小 5桁です」というように桁数の制限を表すメッセージが表示されます。

※また、SunSystemsは過去のパスワード履歴を13個記録しています。過去に使用したパスワードで履歴に残っているパスワードを使用しようとする、「このパスワードは既に使用しています」(This password already in use)と表示されるので、新しいパスワードを設定する必要があります。

##### ②最後にパスワードを変更してから、設定した有効期間（今回の例では60日）の日数が経っていない場合

有効期間が切れておらず、かつ、現状のパスワードが空白の場合、もしくは桁数が設定した桁数よりも少ない場合は、

「パスワードは最小5桁です、修正してください」(Minimum password is 5 digits, please amend)

とメッセージが表示されますので、5桁以上10桁以内で新しくパスワードを入力します。すると、

「確認のため、パスワードを再入力してください」(Re-enter password to confirm)

と表示されますので、再入力します。これで、新パスワードが登録され、ログインすることが出来ます。

次ページ以降は、SunSystems4.3の設定です。

新しいバージョンであるSunSystems4.3では、内部統制管理に対応したアクセス管理についての機能強化が行われています。

11ページには、「SunSystems4.3で強化されたアクセス管理機能」についてまとめましたので、現状、SunSystems 4.2をご使用のお客様もご参照いただき、バージョンアップなどのご検討にお役立ていただければ幸いです。

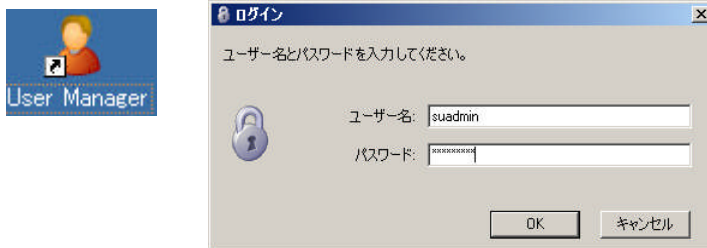
## **SunSystems4.3の場合**

SunSystems4.3では、内部統制管理に対応したアクセス管理についての機能強化が行われたため、オペレータに関する管理・設定は、新機能として追加された「ユーザーマネージャー」で行います。4.2に比べて、操作性が向上しており、パスワードに関する設定などは直感的に行うことができます。

(画面イメージは最新の4.3.2のものです。)

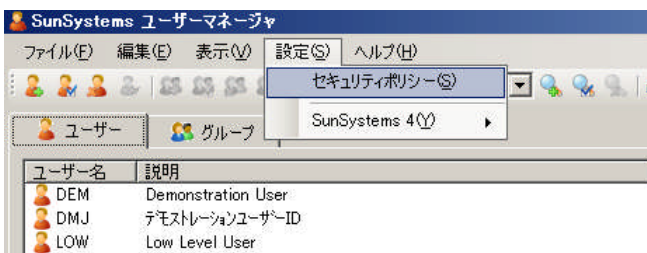
### **1. ユーザーマネージャーの起動**

ユーザーマネージャーを起動し、管理者 (suadmin) でログインします。



### **2. 「セキュリティポリシー」を選択**

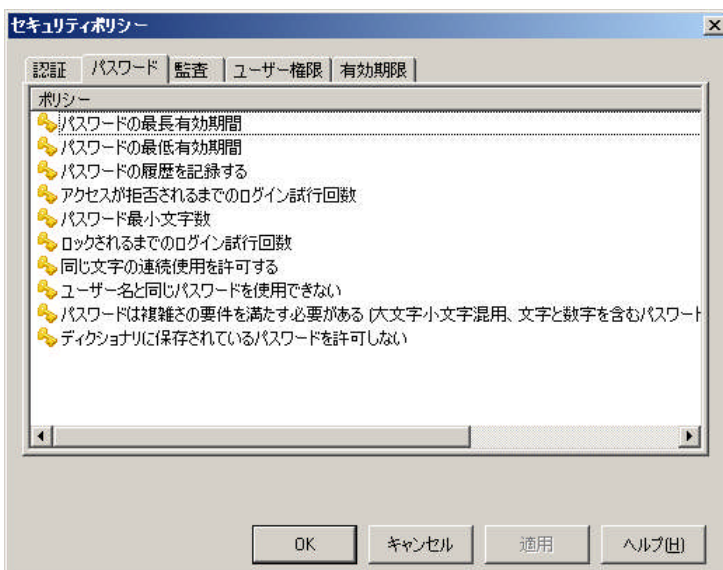
メニューの「設定」から「セキュリティポリシー」を選択します。



### **3. セキュリティポリシーの設定**

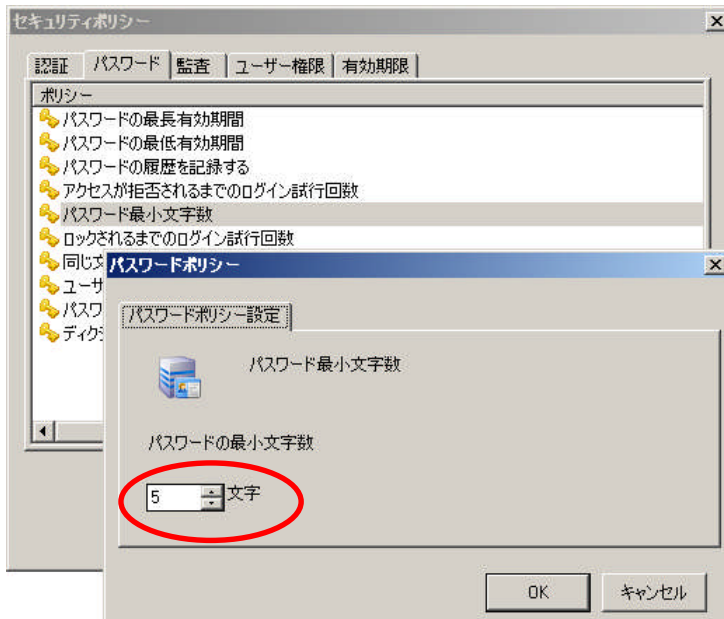
パスワードタブを開き、各項目を設定します。

4.3では、内部統制管理に対応した機能強化が行われたため、設定できる項目が増えています。



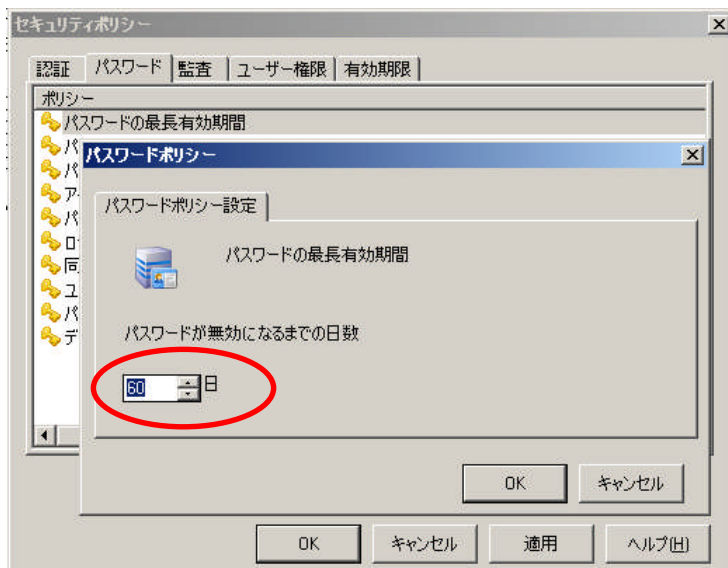
①パスワードの最小文字（桁）数を5文字に設定します。

「パスワード最小文字数」をダブルクリックすると「パスワードポリシー」の画面が表示されます。  
ここで最小文字数を設定します。



②同じように、パスワードの最長有効期間（期限）を60日に設定します。

「パスワードの最長有効期間」をダブルクリックすると「パスワードポリシー」の画面が表示されます。  
ここで「パスワードが無効になるまでの日数」を設定します。

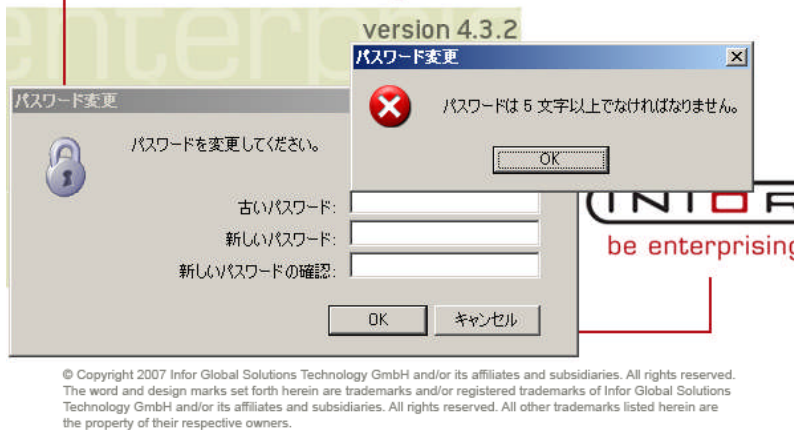


#### 4. 実際の運用例

現状のパスワードが空白の場合、もしくは桁数が設定した桁数よりも少ない場合は、次回のログイン画面で「パスワードを変更してください」(Password must be changed)とメッセージが表示されます。ここで、古いパスワードと5桁以上の新しいパスワードを入力します。これで新パスワードの登録に成功したというメッセージが表示され、ログインすることが出来ます。

もし、入力した新しいパスワードが、5桁に未満の場合は、「パスワードは5文字以上でなければなりません」というメッセージが表示され、再入力を求められます。

## Infor FMS SunSystems v4



## SunSystems4.3で強化されたアクセス管理機能

上記のスクリーンショットでご覧いただいたように、SunSystems4.2ではパスワードの桁数と有効期限しか設定できなかったのに対して、4.3では、内部統制管理に対応した機能強化が行われたため、これらに加えて、以下のように、かなり複雑な制限を設定できるようになっています。

- 1.一定の日数が経過するまでパスワードを変更できないようにする、[パスワードの最低有効期間] が追加されました。これは、[パスワードの履歴を記録する] 設定と共に機能します。パスワード最低有効期間を定義すると、パスワードを頻繁に変更することができなくなります。
- 2.過去に使用したパスワードの使用が出来ないように[パスワードの履歴を記録する]制限をかけることが出来るようになりました。4.2では、自動的に12回履歴が記録され、回数の変更は出来ませんでした。今回からは履歴回数を指定出来ます。
- 3.同じ文字(0~14)の連続使用を許可するかどうかを設定出来るようになりました。0の場合は何文字でも同じ文字を続ける事が出来、1は同じ文字の連続使用を許可しない設定となります。2~14はその数だけ同じ文字の連続使用を許可します。例えば、2と設定すると、「SSYSTEM」というパスワードは大丈夫ですが、「SSSYSTEM」は設定出来ません。
- 4.ユーザー名と同じパスワードを使用出来ないように設定することが出来るようになりました。
- 5.パスワードに大文字小文字混合、文字と数字を含まなければ、パスワードを設定出来なくなる設定が出来るようになりました。(ただし、今のところ特殊文字に関する制限を設定することはできません。)
- 6.パスワードとして使用させたくないキーワードを登録出来るディクショナリ機能が追加されました。ディクショナリに「会社名」「admin」「password」「0000」といったキーワードを登録しておくと、それをパスワードとして使えないように制限をかけることが出来ます。

また、Windowsにログインする際のIDとパスワードで認証を行う『シングルサインオン』の設定も追加され、アプリケーションごとにIDを管理するのではなく、WindowsのログインアカウントでSunSystemsのユーザーを一括管理する方法も選択できるようになりました。

これによりIT部門の負担軽減および、オペレータの管理機能強化がなされ、より高度なアクセス管理のソリューションを提供することが出来るようになりました。同時に、セキュリティ対策をより強力にすることを可能にしています。